

家庭科教育法開講時期と学習内容の検討

家政教育・金子 省子

1. 授業科目について

家庭科教育法の授業科目構成は、2回生前期の家庭科教育法Ⅰを教科教育の田中弘子教員が担当した後、2回生後期にⅡを教科専門の教員が担当して食物及び被服領域を中心とした内容で行っている。その後附属教育実習前の3回生前期に、教育法Ⅲを教科教育の教員が担当し、3回生後期に教育法Ⅳを位置づけている。教育法Ⅳは前半で、保育領域を金子が担当した後、後半は田中教員が担当している。今年度受講生は、学校教育教員養成課程4名、生活環境コース3名だった。

ここでは、金子が担当した家庭科教育法Ⅳの前半部分についての授業報告を行う。

2. 授業の目的・目標・内容構成

家庭科教育法Ⅳの保育領域部分では、保育に関する学習の重要性と方法についての理解を深め、家庭科指導における実践的な力を養うことを目的とし、保育学習の重要性と今日的課題についての理解を深め、授業実践例や教材の分析・検討を通して、実践的な力を身につけることを目標としている。本年度の内容構成は、以下のものであった。①教育実習を終えて／公立校実習に向けて

- ②保育環境と家庭科保育学習の課題
- ③家庭科保育学習の課題（内容・方法・評価）
- ④ 〃 （ロールプレイングの体験）
- ⑤～⑦演習

初回は、学校教育教員養成課程の学生が教育実習での体験について発表し、生活環境コースの学生からは、質問や今後の実習に向けての疑問などを発表。さらに、後日これらについて文書で提出させ、後半担当の教員と共有し授業に生かすこととした。

講義を行ったのち、特に保育領域の方法上の課題の1つである体験的学習のなかから、ロールプレイングを取り上げ、実際に体験のための時間を設け感想を提出させた。演習部分では、講義で指摘した課題に関連する授業実践例及び生徒の実態に関する調査研究などの資料に基づき、受講生が発表者の役割を担い演習を行った。資料の選択

は教員が行った。

3. 授業アンケート及び授業の提出物から

10項目について、5段階評定で、良かった点と改善すべき点を自由記述で求めた。

(1)出席状況、(2)シラバスの提示、(3)内容構成の明確さ、(4)講義と演習のバランス、(6)演習への教員のサポートの適切さ、については、いずれの項目も、「強くそう思う」が4～5名で、「ややそう思う」が2～3名という結果であった。

これに対し、(7)演習への準備、(8)演習への参加状況では、「どちらとも言えない」が2名おり、学生が演習に積極的に取り組んだかについては、課題の残る結果と言える。(9)保育領域の学習内容が学べたか、については6名が強い肯定、1名が弱い肯定で、これについての満足度は高い。しかし、(5)履修時期については、「どちらでも良い」が4名、「3回生前期が良い」が3名で、後者は教員養成課程の学生であることから、実習前の学習を望んでいることがわかる。また、(10)今後意欲をもって学びたい課題の成立については、強い肯定は1名、弱い肯定が2名、「どちらとも言えない」が附属中教育実習後の4名だった。自由記述ではほぼ全員が幅広い保育の指導案の検討や少人数での多様な意見の交換を挙げた。改善点では、レポート課題の自由な選択が1名から、演習は2時限目以降にという希望が2名みられた。

4. 考察及び今後の課題

学習内容の満足度は高く、少人数での演習の意義も理解されていた。一方で、実習前に学習したいという希望や教員志望でない学生の3回生後期の課題意識の評価などに課題を感じる。

現在、2回生で教員養成課程の学生が選択履修する保育学演習の後半の数回で、教育法Ⅳで行う保育領域の実践につながる学習内容をいわば前倒しして位置づけている。しかし、これでは、不十分ということだと思われる。保育学演習とともに、家庭科教育法Ⅰ～Ⅳの時期設定、内容構成と領域の対応関係について、さらに検討していく必要がある。

授業の工夫・効果と繋がり

家政教育・田中弘子

授業の概要

この授業は、3回生後期に配置される選択科目である。専修生にとっては「教育実習を終えた直後」であり、コース生は「春の実習への最終準備」を行う時期であり、必然的に引継ぎをしっかりと行う意義が含まれる。また、教育法のⅠ、Ⅲ等を通し、実地指導、教育実習、そのほか種々の学校体験、社会体験を挟んで、どれだけ社会人に近い感性をもって、教育に臨めるかが試される。今年度は、教職希望また時間割配置の理由のためか、受講生は7名、担当は金子省子、田中弘子である。

授業（後半）の目的と内容の柱は、立論など意見交換をした上で、次の事項を考察し身につける。

- 1 立案、意見交換、教育実習の振り返りと引継
- 2 教育評価法論、ポートフォリオ評価論
- 3 クラス、学校経営論
- 4 PISA および学力テスト、「学習指導要領改訂のための審議まとめ」論
- 5 交流「教育実習、教員採用、一般就職」
- 6 グループワークとしての支援案づくり、マイクロ・ティーチング、評価の実践

授業について主として工夫した点

- 1 目標にたいする有効な方法論
- 2 有効な教材の精査
- 3 これらの効果

学生のアンケート結果

- 1 **教育実習の振り返り、評価、引継ぎ、準備**
「忙しいけど、やった分が必ず返ってくる」「指導案をつくることに慣れたいので、機会があったよかった」
- 2 **教育評価法、ポートフォリオ論**
「自分なりの問題点などをあげ、話し合いを設けたかった」「つかったテキストが分かりやすく詳細なのでよかった」「報告し合って共有できた点もよい」「読みやすかったのですが、評価法は難しいです、なかなか理解できません」
「ポートフォリオ評価を詳しく知れてよかった」「他の人の意見が貴重な参考となった、指

導案をつくる参考にしていきたい」

3 学校、クラスなどの経営、管理

「VTRを観ることは、米国の高校生、金森先生と出会うことで、さまざまなことを考えることができた」「輝け！いのち、十代の裁判も、非常に面白いので、また観たい」「学校全体としての経営を、やはり知りたい」「生徒と正面からぶつかって行って、初めて信頼が生まれる」
「大変分かりやすく、貴重な教材だと思う、実感して学ぶことができた」

4 PISA、学力テスト、学習指導要領改訂案

「ピザ（発音）なんだと驚いた、少しは理解できた」「常に変化し続ける教育の現場を把握することは難しい」「学校教育の新しい方向を学ぶことができてよかった」

5 支援案づくり、マイクロティーチング実践

「準備に時間をかけられれば、なおよかった」
「2つとも活動があったので、楽しめた、もっと早く連絡してくれればよかった」「高校の指導案は検討したことがなかったので、おもしろい教材だったと思う」

6 総合的な意見、提案など

「先輩、後輩をよぶ授業の連絡、打合せが一番大変だった」「座談会がとてもおもしろかった」
「先輩方との座談会は自分のためになった」
「少人数で、互いに意見を出し合える空間がすごくよかった」「あたたかい部屋で、さまざまな分野のことを楽しく学べた」

分析と今後の課題

- 1 授業の立案、構成を、なるべく立体的に、学生が獲得した実践力、社会性を発揮できるよう工夫した。学生自身による座談会・交流は成功したようである。支援案づくり、マイクロティーチング実践は、時間が不足していたが、少数の学生のがんばりで乗り越えた。
- 2 評価、経営など困難な課題、学習指導要領改訂を初めとする時事資料を、学生が自ら検討、批判等する力が不足しがちな点が課題である。